

ちぐさ



CHIGUSA

戸板女子短期大学同窓会千草会

Vol. 69

校歌

尾上八郎 作詞
萩原英一 作曲

一、よき師の君に導かれ

よき友垣にかこまれて
学びの庭の朝夕を
楽しく送る乙女われ

二、まことある子がかざすべき

花の冠は願えども
人目をうばう才学の
あやの衣はのぞまじな

三、日毎にみがく徳と智の

心のうちの真白玉
新なる世にかゝやかん
時をこそまで乙女われ

校歌

大正10年（1921）に作詞 尾上八郎・作曲 萩原英一先生に
よって創られ、総会の度に同窓生全員で斉唱しています。

目次

表紙 校舎

表紙(2) 校歌

2 ご挨拶 千草会同窓生の皆様

会長 小泉きよみ

3 TOITAフォーラムとは

学長 白川はるひ

4 学生が起業するまでに成長した戸板のパワーの源とは？

服飾芸術科教授 安東 徳子

生涯現役を目指して

食物栄養科元教授
生活科10回 牧 充子

広がる輪

5 お便りコーナー

戸板からもらった宝物

服飾芸術科20回 渡邊 陽風

人とのつながりを大切に

生活科43回 小中原康子

6 戸板での学び

食物栄養科20回 斎藤 美香

大谷翔平選手の時代

英文科33回 荒木 葉子

学園だより

7 学生生活

夢を追いかけて

服飾芸術科 吉田 理鶴

短大生活を振り返って

食物栄養科 熊谷 もも

短大一年生でのTOITA Fesの経験

国際コミュニケーション学科
笠井エリシャ彩

8 TOITA Fes 2024

実行委員長 食物栄養科
朝井 菜月

会務報告

9 行事報告

10 会計報告

11 奨学生

支部紹介

支部報告(北海道支部)

生活科13回 大谷 孝子

永眠者・編集後記

12 戸板女子短期大学への寄付のお願い

表紙(3) 入試・広報部からのお知らせ

表紙



三田校舎

1995年(平成7年)に竣工され、地上11階、地下1階のモダンな建物です。この場所は戸板中学・戸板女子高等学校があり、世田谷区用賀に移転したため、その跡地に建っています。竣工当初は被服科(現 服飾芸術科)、英文科(現 国際コミュニケーション学科)でしたが、その後、食物栄養科(旧 生活科)も八王子校舎から移転し、現在の形になりました。旧短大三田校舎は道路を挟んだ向かい側にありました。





千草会 会長
小泉 きよみ



ご挨拶

千草会同窓生の皆様

千草会同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。光陰矢の如しとは申しますが、日々慌ただしく過ごしておりますと一年が早く過ぎ去るのを感じずにはいられませんが、健康であることに感謝し日々を大切に送りたいと思っております。

戸板女子短期大学を退職してから三年が経とうとしています。しばらくの間は生活時間の違いに戸惑う時もありましたが、今では新しい環境でのコミュニケーションや生活のリズムも整い健康的に生活を送っております。

私事ではありますが、退職後に戸板女子短期大学で非常勤講師として参りましたが、本年度を持ちまして終了とさせていただきます。長年に亘り学生と触れ合う事ができたことは、人生に於いて貴重な経験となり、また大きな糧となりました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

そして同窓会千草会会長として

の仕事に關しましては、常任幹事皆様のご協力を持ちまして本年度も滞りなく推進して参りました。奨学生につきましては、学科より模範となり学生生活への取り組みが優良である学生一名の推薦を受けました。候補者三名の面接を奨学生委員が行い、人物が妥当である事を確認し奨学生として人選する流れに至りました。

本年度より奨学金授与式は、学長始め各学科長や学生部の方々にお忙しい中お集まりいただくことを恐縮に感じ、同窓会室にて会長から賞状を授与し奨学生委員より注意事項等につきましてお話をさせていただきました。今年度からこの様に、授与式の方法を変更いたしました。奨学三名の嬉しそうな笑顔を間近で拝見し、同窓会としての有意義な取り組みである事も確信する事ができました。

そして学校主催である「TOITA Fes」が今年度は十一月九日、十日と二日間に亘り開催されました。同窓会では参加を決め、八階の教

室にて「カフェ」を開催いたしました。また今年度は服飾芸術科の学生有志で結成された「ウエディンガンパニー」との協賛で取り組みという新しい試みにチャレンジいたしました。

学生たちが、教室内に動画を流し華やかなセッティングを施されたので、同窓会カフェも昨年とは違った趣になり、明るいイメージとなりました。毎年のことですが、母校を訪れていただく方々は懐かしいお話や交友を育む場として活用されたと思います。テーブルには、カジュアルな形でお茶とお菓子を用意し、おもてなしのスペース作りをしました。その甲斐もありまして、来校された同窓生の方々には、しばしの休憩と共に懐かしいお話に花が咲いておりました。また初めてお目に掛かる方からは、懐かしいお話を伺う事もできました。今年度も常任幹事の皆さまのご協力を持ちまして、滞りなく開催することができました事に感謝いたします。

また本年度「TOITA Fes」開催に対しまして、同窓会千草会から支援金を算出しております。「TOITA Fes」の二日間の来場者は、昨年を上回ったと報告を受けました。盛大にそして無事に開催され見守らせていただきましたことを、会員の皆様にご報告いたします。

そして千草会の支部会についてですが、年々と様々な理由により、支部運営が厳しくなる状況にあり、残念ではありますがやむなく休部にされると判断された支部が増えております。支部の皆様には、長い間大変お忙しいなか同窓会へのご協力を賜りましたことに感謝を申し上げます。また支部運営に關しまして、ご意見等ございましたらお申し出お願いいたします。

同窓会運営に關しましては、会員の皆様から、同窓会を活性化させる方法などのお知恵を拝借できますと幸いです。千草会は同窓生の皆様との繋がりを大切に考え、これまで以上に同窓会への活動に關心をお持ちいただき、積極的に参加していただけるような同窓会を目指して参りますので、皆様の参画を心より願っております。

同窓生の皆様、何卒ご支援ご協力を賜りますようしくお願い申し上げます。

(被服科二十七回)



学長
白川 はるひ



TOITAFォーラムとは

千草会の皆さま、平素は本学の教育へのご理解、学生へのご支援を賜り誠にありがとうございます。二〇二四年は、夏の猛暑はすさまじく、冬になればインフルエンザの大流行と、体調管理により気をつけないといけない年となりましたが、お元気で変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、今回はみなさまに、十二月の恒例行事となりました「TOITAFォーラム」についてお伝えしようと思います。以下は「TOITAFォーラム」についての、キャリアアセンター記載の説明文（短大ホームページ掲載）です。

「TOITAFォーラム」とは、戸板女子短期大学一年生が学生時代に頑張ったことⅡ「学チカ」を、プレゼンテーションの形に仕上げ、戸板女子短期大学の学生を採用していただいている企業の人事担当者の方に向けて、自分をPRしていく

「新しい逆就職活動プロジェクト」の一環です。二〇一八年から始まり、今年で七年目を迎える「大イベントとなった「TOITAFォーラム」は、人事採用のプロである「採用のプロ」の厳しい目線からフィードバックを通してアドバイザーをもらい、就活に必要なビジネスマナーの習得も目指します。

二〇二四年十二月十七日のTOITAFォーラムに参加した一年生は約六十名です。学生は自分が着席するブースにプレゼンテーションのためのパソコンや資料などを準備し、企業様はそのひとりひとりのブースを、約三時間、順次回ってくださいます。今回ご協力くださった企業様は五十七社で、約百名の人事担当の方がおつきあいくださいました。

ほぼ初めて企業の人事担当者の方と接する学生たちにとって、プレゼンテーションを直接間近で聴

いていたことは大変緊張を伴うものですが、プレゼンテーションの回数が増えることに、学生の元気な声や、企業様からのご支援のフィードバック、そして見守る教職員や二年生の存在などで、会場は熱気と温かさに包まれていきました。

「戸板に入ったからには何かに挑戦したい」、「人見知りである自分を克服したい」、「先輩のように、いろいろな方の前で堂々とプレゼンテーションができるようになりたい」など、それぞれの目標を掲げながら、約十回程のプレゼンテーションを最後までやりきった学生たちは、終了後に疲れた様子を見せながらも、安堵感と達成感をその顔ににじませていました。また、企業の方からは「とても素晴らしい学生たちでした」、「なぜこれまでに参加してこなかったのか、悔やまれます」などの声をお寄せいただきました。

日本の若者は自己肯定感が低く、特に女性の自己肯定感の低さは国際的にも際立っていると言われます。それを示すように、本学学生からの「自分に自信がない」、「自分が特に頑張ったことはない」などは本当によく聞く言葉で、決してそんなことはないという教職員の声かけから、このフォーラムの準備が始まると言えます。フォーラムのための準備は約二か月間ありますが、この間、教職員と二年生が参加学生の相談・支援に関わり、自信の持てない学生たちに伴走する態勢を整えながら、成功体験や成長実感を獲得していく仕掛けになっています。

小さなひとつの成功体験、成長実感が、また次の「挑戦」につながっていくきます。本学はこれからも、学生たちが挑戦を続けて自己肯定感をあげ、少しでも自信をもつて社会への扉を開いていけるように、さまざまな「場」を用意していきたいと考えています。こうした「場」は、さまざまな方のご支援があつて成り立っており、ご支援くださる皆様には、この場を借りて心からの感謝を申し上げたいと思います。

本学は、学生がより成長することを目指して次年度もさまざまな改革を行って参ります。引き続き、ご支援のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

学生が起業するまでに成長した

戸板のパワールの源とは？



教授 徳子 安東
服飾芸術科

戸板は二三年続く「伝統ある大学」です。

それでは、「伝統」とは何でしょう？
伝統という言葉から多くの方達はどういうイメージをお持ちになるのでしょうか？
格式や品格はもちろんな事、長い歴史に裏打ちされた信頼性などポジティブなイメージだけでなく、保守的、古臭い、時代遅れなどネガティブな印象もあるようです。同窓生も、現役生も、戸板は伝統ある大学、という認識はお持ちですが、具体的にそれがどのような価値に繋がるのか、については漠然とした考えに留まっていた方も少なくないのではないかと思います。

私は現職に就く前に、多くの大学、短大、専門学校等の教育機関の仕事をさせていただきましたが、終の仕事として戸板を選びました。そして、それには理由があります。十数年前にカリキュラム構築などのコンサルタントとしてのお付き合いが始まり、教授になった現在まで、戸板には他の大学にはない「何か特別なパワー」があると感じたからです。戸板は特別な大学だと感じているからです。

戸板の学生達の学生生活は、たった二年とは思えないほど充実しています。間違いなく充実しています。私の授業でも学生達は積極的にグループワークに参加し、クリエイティブな考えを構築し、精力的に学んでいます。

放課後はサークル活動や「F&S」実行委員、土日は、といたん、やぎやたん、

（オープンキャンパスや大学のイベントの際の選ばれしスタッフの活動やアルバイトにボランティアなど寸暇を惜しんで行動する学生がほとんどです。大学生生活を精一杯悔いなく楽しんで、それが戸板の学生達の今です。さらに昨年、戸板に一つの会社が誕生しました。学生達が起業した「FOLIA」ウエディングカンパニー」というウエディングの挙式＆フォトの会社です。高校を卒業したばかりの女子大生が、自分達の夢の実現に向かって会社を作り、経営している。素晴らしい事です。他の四年生大学や専門学校でもなかなか例を見ない活動です。そこには戸板の学生にしかない「特別なパワー」の存在を感じます。

それでは、そのパワーの源とは何なのか？何故、戸板の学生達は、そんな事を成し得るのか？その答えこそ「伝統」なのです。

一二年間、弛みなく受け継がれてきた建学の精神。二年生から一年生へ、先輩から後輩へと、「知好楽」と「至誠貫徹」という教えは、関東大震災、太平洋戦争と敗戦、高度経済成長、バブル崩壊、東日本大震災といった激動の時代を乗り越え、学生一人ひとりの心の中で育まれ続けています。その教えが戸板の学生にしか持ちえない特別なパワーである事を感じます。これからも、その伝統を礎に、新たな価値を創造し続けること。それがこそ、戸板の輝かしい未来を切り拓くものと確信しています。

生涯現役を 目指して



教授 徳子 安東
食物栄養科
生活科
十回
牧 充

本校を卒業して地元北海道へ戻り、日赤病院で栄養士として勤務しました。献立作成・治療食作り・栄養指導、看護婦学院の栄養学の講義と忙しく仕事をし、やりがいもあり充実した日々でした。

新しく管理栄養士制度が出来、その資格を取るため卒業して十年目に母校に相談に伺いました。当時八王子校舎の給食管理研究室に勤務しながら勉強をして資格をとったら良いのではとお話して、母校に勤めることになり定年退職まで三十七年間在職いたしました。

八王子校舎では春は満開の桜の下でお花見・竹の子掘りをし、秋は学園祭で、手作りの味噌やジャム・クッキーなどの販売、給食管理実習室での食事提供などで地域住民との交流も盛んに行われました。後夜祭に近くの工学院大学の学生さんと、フアイアー・ストームやフォークダンスを楽しんだ事などが思い出されます。

その後、学科名を「食物栄養科」に変更し、教育内容、カリキュラム変更などもあり、やがて我が八王子校舎も三田校舎へ移転することになりました。三田校舎に各教科目の実験実習室の新設から始まり、八王子校舎の整理と引っ越し、三田校舎での荷物の受け入れなど職員が一致団結して完了させ、新学期に向け準備しました。希望に胸膨らませ、三田校舎で食物栄養科は再スタートしました。通勤時間が半分に

短縮され楽になりました。その頃、夫が大病を患い介護が必要になり、周りの協力を得て仕事を続けましたが限界を感じ、介護に専念する事を決め平成十八年三月に職場を去りました。

介護途中で食事を取る事が出来なくなり胃瘦にしましたが、自宅介護に向け手厚いリハビリのおかげで口から食事が取れるようになり、病人の顔が生きてきた顔に変わるのです。口から食事を取る大切さを痛感いたしました。お世話になったクリニックの先生から栄養指導の仕事の勧められ、週三回の約束で仕事をする事になりました。現在も継続しています。

当院では糖尿病、高血圧や肥満など生活習慣病の患者さんやその予備軍の人達、自覚症状が乏しい人にも食事指導をして行動変容に繋げ、生活習慣を改善し健康で楽しい食生活へと導いています。初診で体型チェック、生活状況を聞き食事バランスガイドに添って食事計画を作成します。食事・減塩の仕方・運動・食べるタイミングなど指導し、継続出来る事から始め、三か月毎に面会、血液検査結果と生活の報告を受け、改善出来た事・出来なかった事をみつけ、次への行動変容に繋げていきます。良い習慣を継続する事の難しさに悪戦苦闘しています。多くの患者様との出会いの中で、沢山の人生を学ばせて頂きました。またこの仕事を通して「教える事は学ぶ事である」の名言通りだと、私自身痛感しています。

先日、日本栄養士会から栄養橋寿会員の称号を授与されました。健康で長い間仕事をすると褒めが頂けるのです。健康に感謝し無理せず、自分出来る事を楽しみながら自由に過ごしていきたいと思っています。皆様の健康とご多幸を心よりお祈りします。

服飾芸術科二十回

戸板からもらった宝物

渡邊 陽風

はじめに、この度はこのような機会をいただき誠にありがとうございます。硬い文章を書く事が苦手なので、温かい目で読んでいただけたら幸いです。

私が戸板女子短期大学に入学したきっかけは、幼いころから着物に関わる職業に就くことが夢で、就職率が高くファッションを幅広く学べると知り入学をしました。コロナ禍だったため入学式がなく一年生前期は全てリモートでの授業、後期から登校できるようになりました。そこで一人の職員の方と出会いました。のちに私の恩師となります。ユニークな発想と行動力のある方で、なにより人を巻き込む力を持つていてとても不思議な方でした。コミュニケーションをとるうちにアドバイスを受け、たくさんの課外活動に取り組むようになり、学園祭実行委員、学生会、チームといった、アイドルプロデューサーなど、中でもチームといたんとアイドルプロデューサーは私の人生を変える経験だったと思います。

チームといたんでは、二学年に総監督を任せていただきチームワークや人を巻き込む力、相手が求めるものを察し提供する力を学びました。アイドルプロデューサーでは、といったような戸板の顔になるコンテンツを新しく作りたいと思い、「戸板通り通過中」を立ち上げました。活動していくにつれ仲間も増え、自分が想像したものを実現させることの難しさを痛感すると同時に、組織やステージを作っていく楽しさを感じました。現在も私が立ち上げたアイドルが続いていることがなにより嬉しいのです。

たくさんの方に会い多くの経験をしていく中で、エンタメ業界の方に憧れを抱き芸能界を目指すようになりました。夢を叶えるために一緒に考えてくれる恩師のサポートもあり、現在は「超十代」というZ世代をターゲットにしたイベント

制作や、インフルエンサーマーケティングを行っています。戸板とも毎年お仕事をさせていただき、卒業後も大好きな学校の空気を感じられることがモチベーションになっています。

卒業し三年経った今、戸板で学んだことを生かす旅に出ています。三年目ですが様々な経験をさせてもらい、できることとできないことが見えてきて自分自身を振り返ることが増えてきました。大学生のときのように怖がらず挑戦、一つ一つ課題をクリアし自分自身が誇れる人間になれるように努力していきたいです。戸板からもらった経験は私の宝物で、人生の大事な通過点です。



人とのつながりを大切に

生活科四十三回

小中原 康子

戸板女子短期大学を卒業後、管理栄養士として大病院に就職しました。系列病院内での異動もあり、現在は戸板と同じ港区の大病院で勤務しています。

突然ですが、みなさんは慢性腎臓病（CKD）をご存じですか。CKDは腎障害や腎機能の低下が持続する疾患の総称で、五人に一人はCKD患者と推計され、進行すると透析療法や腎臓移植が必要になります。職種横断的なCKD療養指導で重症化させないよう、腎臓病療養指導士制度が立ち上がりました。

私は腎臓病療養指導士（CKDE）の資格を取得し、院内・外でのCKD療養指導や啓発活動に

取り組んでいます。

当院で管理栄養士の病棟配置を開始した際に、最初に担当したのが腎臓・高血圧内科の病棟で、腎臓病に興味をもち、資格を取得しました。初めてのことで手探りで入院患者の栄養管理を行っていました。入院患者は、初めてCKDと診断された方、入院を繰り返している方、透析療法を導入する方など様々です。入院を繰り返している患者の中には、「何度も栄養指導を受けているので分かっている」「同じことしか言われないから栄養指導は必要ない」と拒否されることもあり、患者により病態や症状には違いがあり、身体的な苦痛だけでなく、心理的、社会的な問題も抱えています。医師や看護師、薬剤師など多職種で、問題点や退院までのゴール設定、退院後の課題などを相談し、チームで患者をサポートしていくように取り組みました。この時にチーム力の大切さを感じました。

CKDE取得後は、医師、看護師、薬剤師と一緒に、世界腎臓デー（三月第二木曜日）にCKD予防のためのイベントなどを行っています。

また、院外では、他病院の管理栄養士の呼びかけにより、二〇二三年十二月に港区在住、在勤のCKDEの会（みなと腎臓を守る会）が発足され、チームの一員として活動しています。

活動内容は、地域活動の一環として医師会と一緒にみなと区民まつりに参加、ホームページを開設し、CKD啓発に関する情報や適塩レシピなどを配信しています。これからも、チームで力を合わせ、CKD重症化予防に貢献していきたいと思っています。



戸板での学び

食物栄養科 二十回

斎藤 美香

はじめに、在学中にお世話になりました教職員の皆様、この場を借りて御礼を申し上げます。また、このような機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は食物栄養科を二〇二二年に卒業後、高齢者福祉施設に三年半就職し、現在は戸板女子短期大学の広報部に働いております。振り返ると戸板で二年間過ごせた経験は、多くの場面で役に立っていると感じます。そこで、私の仕事に活かしている戸板での学びをご紹介します。

高齢者施設へ入社をした決め手は、イベント食を自ら考案し、実現できる点に魅力を感じたからです。在学中に産学連携においてメニューを考案したり、オープンキャンパスでオリジナルの企画を行ったりした経験から、私にとって企画を考えることは楽しく、やりがいがありました。その為、働く上でも自ら企画を提案して実現できるような職場であることを基準に選びました。

しかし入社後は、料理ごとの調理法を覚えたり、衛生管理方法や発注方法など覚えることが多く、なかなかイベント食の立案へ取り掛かることができませんでした。そのため、効率的に作業を進めようと業務の改善を行いました。具体的には、発注システムを見直して発注締め切り日を自動計算できるようにしたり、商品規格を間違えないように一括で変更できる仕組みにしました。このように業務改善に取り組めたのも、在学中にパソコンの資格を取得できたり、オープンキャンパスの人員配置を考えたりする経験が活かされていると思います。

そうして時間を捻出し、イベント食の立案も行えました。なかでも印象に残っていることは社内

の料理コンテストに出場したことです。在学中に行った調理実習やテーブルコーディネートの内容を見直して臨むことができました。出場できたことにより、料理の幅だけでなく、仕事に対する取り組み方においても多様な考えを持てた機会となりました。

このように在学中の経験で得た強みを活かせており、すべて良かったと思えることがいくつもあります。今戸板で学んでいる学生にも、私がそうだったように、小さくても気づきが得られるような機会を作りたいと思います。



大谷翔平選手の時代

英文科 三十三回

荒木 葉子

私はMLBのロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手の大ファンです。ここ数年テレビでメジャーリーグでの大活躍を拝見し応援しています。二〇二四年はホームラン王、打点王、そして五十・五十の達成、また二〇二三年のWBCも記憶

にあるところです。私の子供の頃は、日本人が野球で世界に通用するなんて、ましてや尊敬され憧れられるなんて想像すらできませんでした。野球の神様ペイ・ブルースと並び称される日が来るなんて誰が想像したでしょう。

大谷選手は高校の時に目標達成シートを作り自分の目標を達成するため事細かく考えそのシートに沿って行動しました。シートの中心にドラム、八球団とし八つの要素、その要素の一つ一つを達成するための行動、考え方など、今の私が見ても驚いてしまいます。例えば目標を達成するためにには運が必要と考え、運をよくするための行動と考え方としてごみ拾い、挨拶、プラス思考などを挙げています。今の大谷選手を見ていても球場内にごみがあれば試合中でも拾ってポケットにしまふ、試合開始の時には相手の監督に必ず挨拶する、すべての審判にあいさつする、試合に負けてもいっぱい寝て次の日に負けた悔しさを持ち越さない等々、世界中の人々が、メジャーリーグの選手が、日本の高校野球の選手が、今もしていることをしているとは驚きと尊敬で大谷選手をみています。メジャーリーグの選手すら大谷選手の努力と人間性に対し尊敬の念を抱いています。

二年連続両リーグでそれもDHでなど初物づくしでMVPを獲得するだけでなくハンク・アロン賞をはじめいろいろな賞を受賞しました。しかし、これらの多くの誉れある賞以上に、大谷選手の人間性と努力は価値があるのではないのでしょうか。

これからまたバッター、ピッチャーと二刀流で活躍し、MLB初のMVP、サイヤング賞の受賞を獲得する姿を期待します。いつの間にか大谷選手が野球の神様と呼ばれるようになり、その姿を見る為にも健康に留意していきたいと思っています。

学生生活

夢を追いかけて

服飾芸術科二年 吉田 理鶴

私は幼い頃から美容部員になりた
いと考えていました。そのため、学生時
代には戸板学生美容家の部長として、
オープンキャンパスで来校された高校
生や保護者の方々に化粧品品のタッチ
アップを行う活動に参加しました。

この経験は私にとって非常に貴重
であり、特に印象に残っているのは、
ビューティーガイダンスの学生講師と
して高校を訪れたことです。そこで短
期大学での経験や学びをまとめた資
料を作成し、プレゼンテーションを行
いました。この活動を通じて、多くの
人に美容の楽しさや重要性を伝えるこ
とができたことは、私にとって大きな
喜びでした。

高校生の頃は、自分から積極的に発
言することが少なかった私ですが、二
年間という短い時間の中で最大限に
成長したいという強い思いから、さま
ざまなことに挑戦しました。その中で
特に大切だと感じたのは、自分の言葉
で伝えることです。大きな強みや特別
な経験がなくても、自分が感じたこと
や経験したことを素直にまとめるこ
とが重要です。他人と比較するのでは
なく、自分自身を素直に分析し受け入
れることで、次に何をしたいのかが見
えてきます。これからも内定先で自分
の興味や関心を磨き、その成果が誰か
の幸せに繋がるよう努力していきたい
と考えています。

美容部員としての道を歩む中で、常
に成長し続ける姿勢を忘れず、周囲の
人々に喜びを届けられるよう頑張り

ます。私の目標
は、ただ美容の
技術を磨くだけ
でなく、人々の
心に寄り添い、
美しさを引き出
すことです。



短大生活を振り返って

食物栄養科二年 熊谷 もも

私にとって在学中の二年間は、様々
なことに積極的に挑戦をして視野を
広げ、自分自身を大きく成長させるこ
とができた非常に濃い期間だったと
思っています。

私は高校二年生の時にオープン
キャンパスに参加し、キラキラした先
輩方や親身になってくださった先生
方を見て憧れを持ち、自分が一番成長
できる場所だと確信をし、入学を決め
ました。地元が長野県であるため、入
学を機に親元を離れ一人暮らしを始
めたので慣れない環境での暮らしに
不安を抱えながら入学したことを今
でも覚えています。ですが、温かい友人
や先生方に恵まれ、段々とこの学校が
自分の中で安心できる場所へと変わっ
ていきました。そして、夢のために上京
したことや送り出してくれた家族の
ために、後悔のない二年間を送りたい
と思えるようになり、様々なことに挑
戦をしました。

日々の授業や課題、定期試験はもち
ろんのこと、プレゼンテーションや産
官学連携の授業、そして授業外の時間
に港区の皆さんと共同で行う、みんな
とプロジェクトや同好会活動、ボラ

ンティア活動に挑戦をし、色々な方と
出会い、沢山の経験や知識を得ること
ができ、自分自身を大きく成長させる
ことができました。そしてこの大学生
活は、私の今までの人生の中で一番濃
い二年間となり、戸板女子短期大学に
入学してよかったと心から思います。
この二年間があったから四月から自信
を持って社会人として挑戦していける
と思うので、得た知識や経験をお客様
に対しての接客の中で活かしていける
よう頑張ります。

短大一年生の

TOITA FesG経験

国際コミュニケーション学科二年
笠井 エリシヤ

短期大学一年生の時、初めてTOITA
FesGに参加した経験は、私にとって非
常に成長を感じる貴重な出来事とな
りました。FesGでは、日本の文化をイン
バウンドのお客様に伝えるという役割
を担い、多くの外国人観光客の方々を
お迎えする準備を進めてまいりまし
た。この活動を通じて、自分自身の行
動力や英語力を試される場面も多く、
学生生活の中で大きな学びを得るこ
とができました。

FesGの準備期間中、私はFesGの認知度
を高めるため、友人を誘い東京タワー
へ足を運びました。そして、観光客の
方々にFesGのピラを配布することを先
生に提案し、自ら進んで実行しました。
配布を行う中で、多くの方が興味を
持って受け取ってくれた一方、帰国
や他県への移動予定がある方が
多く、FesGに実際に来ていただけ
るか不安に感じる場面もありました。

FesG当日、インバウンドのお客様の
来場が思うように進まず、私は新たな

方法を模索する必要がありました。そ
の際、大学近くにある「セレスティンホ
テル」に足を運び、FesGの告知をさせて
いただけたか自ら交渉を試みました。
ホテルには多くの外国人観光客が滞
在しており、お話を伺ったところ、多忙
なスケジュールの中で「時間があれば
訪れてみたい」との返答をいただくこ
とがほとんどでした。しかし、このよう
に自発的に行動し、英語を活用して直
接コミュニケーションを図れたこと
は、自分自身の大きな成長につなが
たと感じています。

その結果、最終的には外国の方々が
FesGに足を運んでくださり、私たちの
活動が実を結びました。この成功は、
私ひとりの力だけでなく、クラスメイ
トや周囲の協力があつたからこそ実現
したものです。一人ひとりの努力やサ
ポートがあつたからこそ、FesGを成功
させることができたことに深く感謝して
います。

こうした経験を通して、戸板女子短
期大学での学びが、自らの成長の土台
となっていることを実感しました。多
様な授業から得られる知識やスキル
はもちろん、実際の活動を通し社会で
必要とされる力を養うことができた
した。この経験は、私にとって単なる
FesG以上のものであり、自分の行動力
や挑戦する意欲を育む大切な機会と
なりました。今後この経験を糧に、
さらに積極的に学び、成長していき
たいと考えています。





本年度のTOITA Fes実行委員長を務めました朝井菜月と申します。まずは、今年も無事にTOITA Fesを開催できたことに心から感謝申し上げます。

今年のTOITA Fesは、「関わっている全ての人が輝くFesにしたい」「来場してくださった方を含めた全ての方の笑顔が輝くFesにしたい」という思いを込め「Sparkle」をテーマとしました。そして昨年に引き続き、対面と配信を組み合わせたハイブリッド型で開催しました。両日とも多くのお客様にお越しいたいただき、来場者数は二千人を越える大盛

況のFesとなりました。

TOITA Fes実行委員会として百名が運営に携わり、ステージ企画・フロア企画ともに力を入れて活動しました。また、音響・照明・YouTube配信や、演者やお客様の誘導も全て実行委員で行いました。さらに、本年度から学科やPBL(課題解決型授業)授業なども含めた学校全体としてのFesとなり、各学科の先生方や学生の協力のもと、授業の成果を発表する場にもなりました。

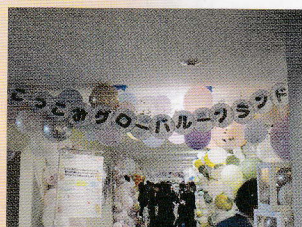
私たちも手探りで活動を進めていく中で、参加団体とのコミュニケーションが上手いかなかったり、昨

年とは活動方法を変えた実行委員内で活動が円滑に進まなかったりなど、多くの苦悩がありました。そんな中で私を支えてくれたのは、副実行委員の三人と各役職のリーダー達でした。全員が積極的にコミュニケーションを取り、誰かが仕事を抱え込んでいたら進んで声を掛けて助ける、そんな心の優しい人の集まりでした。Fesを通して一生大切にしたいと思う仲間ができたこと、そしてその仲間と共に短大史上最大で最高のTOITA Fesを創りあげられたことを心から嬉しく思います。

また、このようなFesを開催する

ことができたのは、教職員の皆様や卒業生の皆様、ご協賛いただいた企業様のサポートがあつてこそです。心より感謝しております。今後とも戸板の学生一人ひとりが輝ける場、活動できる場として学内最大のイベント「TOITA Fes」にご協力いただければ幸いです。

最後になりましたが、今年度も同窓会千草会様、戸板父母の会様から多大なご支援及びご援助を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。



1 行事報告

二〇二四年（令和六年）

四月一日 入学式に来賓として会長が出席
四月八日 『ちぐさ』第六十八号二年生に配布依頼
四月十日 事務担当者の傷害保険加入手続（有川）
五月十九日 第一回常任幹事会
五月二十八・二十九日 奨学生面談

会計監査

六月五日 奨学生選考委員会

六月十五日 幹事会

六月十九日 北海道支部会開催 於 梅の花

六月二十四日 二〇二四年度奨学金授与式

六月二十六日 幹事会欠席幹事への書類送付

七月十日 事務担当者の傷害保険更新手続（古閑）

八月二十七日 二〇二四年度奨学生に奨学金の振込

八月二十八日 学位記ホルダーの発注

八月三十日 二〇二四年度入学生の会費入金

九月五日 経常費の予算額を三係（庶務・会計・企画）・三委員会（ちぐさ編集・奨学金支部）に振込

九月十二日 第二回常任幹事会

十月十七日 『ちぐさ』第六十九号編集会議

十月三十一日 『ちぐさ』編集会議

振込
TOTTA Fes 2024 支援金を学生会宛に

十一月九・十日 TOTTA Fes 2024 参加

十二月六日 『ちぐさ』原稿締切

十二月十一・十二日 『ちぐさ』編集会議

十二月二十三日 新卒会員名簿の依頼

『ちぐさ』原稿入稿

二〇二五年（令和七年）

一月～二月下旬 『ちぐさ』編集会議

二月七日 二〇二五～二〇二六年度幹事依頼発送

三月十日 『ちぐさ』第六十九号発行

三月十一日 『ちぐさ』稿料・謝礼の整理と発送

三月十五日 卒業式に来賓として会長が出席

三月下旬 第三回常任幹事会

2 二〇二四年度の役員紹介

二〇二四年四月から新幹事になられた方を紹介いたします。新幹事の任期は二〇二七年三月までです。

■新幹事紹介

服飾芸術科 秩父 葉月（20回）

食物栄養科 戸泉 寧々（18回）

西村 有菜（21回）

国際コミュニケーション学科 後藤 美咲（17回）

二〇二四年三月卒業の新幹事

服飾芸術科 隈田原佳奈（22回）

食物栄養科 井上由希乃（23回）

国際コミュニケーション学科 田邊 由芽（21回）

斎藤 美香（20回）

竹内彩那香（22回）

松田 彩美（19回）

久保田美彩（22回）

中島 心琴（23回）

吹澤 ゆり（21回）

3 会計報告

二〇二四年（令和六年）の幹事会において、二〇二三年度決算、二〇二四年度予算案が承認されましたので、ご報告いたします。

■奨学金について

二〇二三年度の奨学生は、各科より推薦いただいた三名に各三十万円、合計九十万円を支出いたしました。尚、支給方法は、後期授業料の支援として一括支給としました。

■会費納入について

二〇二三年度の会費納入者は、学生会費四百七十名・終身会費一名、年会費三名（うち二名は二年分）でした。

■雑収入について

二〇二三年度ご寄付を左記の方より頂戴いたしました。白川はるひ学長

■学生費について

また、休会支部（北部九州）より、ご寄付いただきました。学生費は、『TOTTA Fes』の支援金と、卒業生への記念品（学位記ホルダー）代として支出いたしました。

■会費納入について

会費納入方法が昭和五十三年三月に切り替わっています。昭和三十二年三月以前に卒業された方は、年会費（千円）あるいは終身会費（一万円）のいずれかの納入方法を

選択することができます。この納入制度切り替え時以後、未納の方には、会報誌『ちぐさ』をはじめ同窓会からのご連絡が途切れていきます。会費の納入をお願いいたしますとともに、ご友人にもお伝えいただければ幸いです。また年会費の方は、既定の振替用紙で送金ください。なお、昭和五十三年三月以降の卒業生は終身会費で納入されております。

4 同窓会事務室からお願い

昨年三月『ちぐさ』六十八号を皆様のお手元にお届けしてから、住所不明者として二百四十六通が戻ってきました。大変残念に思っております。毎号『ちぐさ』の誌面でもお願いをしておりますが、住所変更や改姓の折には、出身科・卒業回数または卒業年・クラスなどを書いて、同窓会事務室までがき・FAX・メールなどでご連絡ください。なお、お電話でのご連絡は、間違いの原因にもなりますのでお控えください。

なお、同窓会事務室の開室時間は左記の通りです。

事務室開室時間

月曜日～金曜日

九時四十五分～十六時三十分

（十二時～十二時四十五分まで休憩時間）

住所・電話・FAX番号

戸板女子短期大学同窓会千草会

〒105-0014 東京都港区芝二丁目十一番十七

電話・FAX 〇三・三四五二・四一六九（直通）

メールアドレス chigusa@st.toita.ac.jp

戸板女子短期大学のホームページから同窓会千草会のホームページへリンクしております。年間行事予定や行事報告などの最新ニュースを載せておりますので是非ご覧ください。

ホームページ

<https://www.toita.ac.jp/>

QRコードからホームページへアクセス





千草会 支部紹介



支部名	支部長	卒業回数
北海道支部	大平 清美 (山下)	生活科 16回
群馬県支部 (連絡先)事務局	北爪 隆江 (原田)	生活科 15回
	近藤 二三枝 (武)	生活科 19回
宮崎県支部	江藤 博子 (佐藤)	生活科 18回
北部九州支部	休 会	—
福島県支部	休 会	—
栃木県支部	休 会	—

連絡をお取りになりたい方は、戸板女子短期大学同窓会事務局までご一報ください。

同窓会千草会奨学生

二〇二四年度の同窓会千草会奨学生は、各学科からの推薦を基に、選考委員会において書類審査、面接を行い、服飾芸術科一名、食物栄養科一名、国際コミュニケーション学科一名の計三名を決定いたしました。奨学金授与式は六月二十四日(月)に、同窓会室にて小泉きよみ会長より賞状をお渡しいただきました。

この奨学金は、二年生を対象に人物、学業に優れており、また学業の継続に援助を必要としている方に対して支給しています。各学科より推薦された学生を、同窓会が面接を行い選考しています。

同窓会千草会は母校の発展と人物育成のために、奨学金支援を継続しています。

支部報告

北海道支部より

生活科十三回 大谷 孝子

卒業生の皆様お変わりありませんか。六月十九日札幌での小規模な会合が開催されました。参加者は十二名で、「梅の花」で豆腐料理に舌鼓を打ちながら、世界情勢や健康、年金、趣味など多岐にわたる話題で盛り上がりました。また、あの時代に東京に出してくれた親、恵まれた環境に育ったことに感謝は尽きません。

大谷翔平選手のように目標を持ち続ける姿勢に感銘を受け、私達も何か目標を持ちつつ、健康で次の会に望みたいと思います。



日時 令和六年六月十九日(水)
場所 梅の花
時間 午前十一時～午後一時
参加者 十二名

永眠者

豊岡 貞子 (豊岡) 中等教員養成科42回

堀部 妙 (塚田) 高等師範科27回

石井 正枝 (本田) 高等師範科27回

斉藤 ミツ (斉藤) 高等師範科28回

四条千登世 (福岡) 高等師範科28回

西方みつ江 (福岡) 高等師範科34回

岡野 好子 (萩原) 新設家政科11回

内藤 武子 (佐野) 新設家政科16回

瀬尾 雪枝 (岩崎) 新設家政科22回

高田 光江 (榎本) 家政専攻科4回

飯塚 幸子 (今村) 家政科2回

嶋岡 昌子 (菅沼) 英文科1回

長妻てるか (石井) 英文科16回

松崎 博子 (板屋) 英文科29回

吾妻久美子 (秋山) 英文科38回

鈴木 克枝 (井上) 被服科2回

福住 玲子 (山本昭子) 被服科2回

千葉 眞理 (桜井) 被服科3回

松井勢つ子 (石渡) 被服科5回

山本 亞稀 (柏倉) 被服科6回

池田 敏子 (米山) 被服科10回

三井 サト (関) 被服科12回

西山悠紀子 (寺島) 被服科18回

長友 紀子 (五十嵐) 被服科41回

小玉 麗子 (大江) 生活科7回

星野 千江 (上地) 生活科12回

森下 美穂 (五十嵐) 生活科12回

吉田 敏子 (大江) 生活科12回

宇田川トミ子 (上地) 生活科12回

伊藤 玲子 (上地) 生活科12回

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

正会員になられた皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様をお迎えし、大変心強く嬉しく存じます。皆様のご活躍とご健康を祈念いたします。

今号は、概ね執筆皆様様の原稿をそのままお載せいたしました。執筆して下さった先生方、卒業生、在校生の皆様感謝いたします。

『ちぐさ』の持続可能性を考え、ページ数を削減しました。戸板栄養士会だより、お手軽おやつのは割愛させていただきました。戸板栄養士会だよりの内容は短大HPからもご覧いただく事ができます。

ご執筆いただいた牧先生とは八王子校舎で一緒に過ごした。あの頃の懐かしい風景と共に研究室の皆様と楽しく過ごした日々を思い出しました。今も現役でのご活躍に尊敬申しあげます。

今回の表紙は校舎、裏表紙は校章にしました。懐かしさを感じていただけたのではないだろうか。

二〇二四年十二月、テレビ朝日放送の「路線バスで寄り道の旅」で徳光和夫さん・田中律子さん他ゲストが来校し、いくつかの授業を見学され、九階のスカイルームで『ウェディングカンパニー』の活動に参加されました。(一月四日に放送済)

今年は大谷翔平選手の大活躍が明るい話題となりました。今後の活躍がとて楽しみます。

ちぐさ編集委員

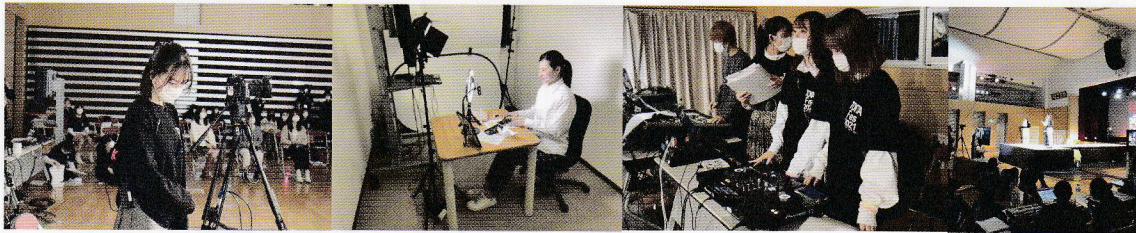
戸板女子短期大学への 寄付のお願い

Check!

戸板女子短期大学への直接寄付をする場合

募集目的：戸板女子短期大学における教育研究環境充実のため
募集対象：卒業生、在学生父母、受入目的に賛同する個人・企業・団体
寄付金額：1口 10,000円以上

戸板女子短期大学
直接寄付に関する
問い合わせQRコード



【過年度寄付の使い道について】撮影機材(録画ルーム1、2)

就活でのエントリーに、自己紹介動画など、新型コロナウイルス禍、新たな取組が必要になっています。
動画撮影室などの機材を購入させていただきました。

Check!

港区版ふるさと納税制度(団体応援寄付金)を活用して寄付する場合

港区版ふるさと納税制度は、寄付を通じて活力あふれる地域共生社会の基盤づくりを推進するため、「納税者が自ら寄付先を選択し、地域を応援する」というふるさと納税制度本来の趣旨を踏まえ、返礼品によらず、寄付者自身が寄付の使い道をお選びになり、区の出組を応援していただく制度です。個人の方が対象です。自治体に寄付をすることで所得税や住民税の控除を受けられます。

応援したい団体をお選びいただきますと、寄付受付期間(1月～12月)の翌年、寄付額の7割を上限として、お選びいただいた団体へ港区より補助金が交付されます。

東京共同電子申請・
届け出サービス



同窓会アンケート回答のお願い!

戸板女子短期大学では同窓生の皆様に、学生時代の学びが今に役立っているかの調査をしております。お答えいただいた内容を真摯に受け止め学びの改善につなげてまいりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

お気づきの点をご教示いただけましたら幸いです。右のQRコードから、アンケートにお答えください。



速報! 母校で結婚式を挙げられます!

戸板の現役学生達が「TOITAウエディングカンパニー」という会社を起業しました。
「フィロースチャペル」(9Fスカイルーム)での結婚式が格安で挙げられます。
フィロースには愛するという意味が込められています。これから結婚するカップルはもちろん、結婚を挙げなかったご夫婦にも絶好の機会です。
みなさまの2年間の思い出の詰まった母校での結婚式、ぜひご検討ください。
お子様からのプレゼントとしても喜ばれます。



〇ウエディングフォトプラン ￥48,000～(税抜) プランに含まれるもの:新婦ドレス(2着)、小物、ヘアメイク



お問合せとプランの詳細はQRコードからお願いいたします▶▶▶

問合せ先:戸板女子短期大学教務部:03-3452-4161

ついに!

「関東で最も志願者の集まる短期大学」 になりました!

同窓会千草会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
おかげさまで、戸板女子短期大学は「魅力ある短期大学」として各方面から注目されています。

企業連携した計10個のPBLプロジェクト

【教育目標「知好楽」+実学の専門性】を実現する為に、企業連携として今年度は計10個のプロジェクト演習を行いました。学生が企業の方々とコミュニケーションをとりながら実践的な学習を行うことができました。

アパレルブランド起業プロジェクト

服飾芸術科の1年生がファッションブランドを立ち上げました。ブランド構築から実際の運営まで行いました。ECサイトも立ち上げて販売も行っています。



お弁当メニュー開発

ランドローム様からの依頼に基づき、「丼物」と「生地を使ったデザート」の二種類のメニュー開発に挑戦しました。出来た商品は実際に店舗で販売も行いました。



学生広報スタッフ「Teamといたん」とキャリアアドバイザー「きやりたん」の活躍

① 高校教員向け説明会

7月に、戸板女子短期大学としての方針や各学科の学びの方針、入試の変更点などを高校の先生方や代理店にご説明するイベントを開催しました。



② 年間表彰式

「Teamといたん」の2年生たちの活動を表彰する「といたんアワード2024」をもって約1年半の活動に区切りをつけました。ホールの観覧席には高校の先生方や内定先企業も訪れ、といたんでの活躍を多くの方々にお伝えすることができました。



同窓生子女入試のご案内

二親等以内に卒業生がいる方に向けた入試を実施しております。入学金の半額免除(125,000円)の奨学制度もございます。詳細は本学ホームページよりご参照ください。

ご卒業生の皆様、在学生応援のために企業連携やOG訪問にご協力ください

企業連携やOG訪問にご協力頂ける方はお気軽に下記までご連絡ください。

●お問い合わせ・お申し込み

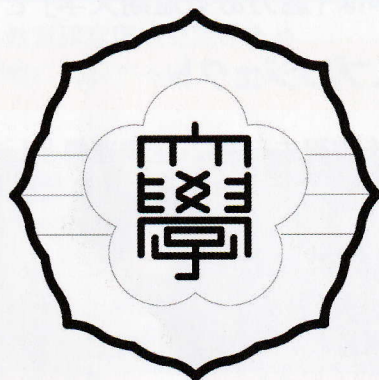
短大事務局

TEL 03-3452-4161 (代表)

入試・広報部

TEL 03-3451-8383 (直通) 堀江・斎藤
E-mail ao@toita.ac.jp





CHIGUSA

『ちぐさ』第69号

編集 ちぐさ編集委員会
発行日 2025 (令和7) 年3月10日
発行者 東京都港区芝2-21-17
戸板女子短期大学同窓会
千草会

TEL/FAX
03-3452-4169 (直)

E-mail
chigusa@st.toita.ac.jp

ホームページ



制作 エックスデザイン株式会社